

令和8年度 第2回鹿島市地域公共交通会議・鹿島市地域公共交通活性化協議会 合同会議

日 時：令和8年10月6日（火）15時00分～16時30分

場 所：鹿島市役所 3階 庁議室

参 加 者：別紙のとおり

司会進行：広報企画課長

1. 開会 広報企画課長

2. 会長あいさつ

3. 協議

（1）鹿島市地域公共交通計画 骨子案について

【事務局から説明】

【質疑・応答】

（現計画の検証）

委員A：交通空白地を有する行政区数が目標値を下回っている状況であることがわかります。

鹿島市で定めている交通空白地の基準を教えてください。

事務局：交通空白地については全国的に定まった定義がないため、現計画では最寄りバス停から500m以上離れている地域と定義しています。

委員B：計画目標1の事業である「AI・ICTを活用したデマンド交通システムの導入」が未実施となっていますが、今後の予定などあれば教えてください。

事務局：運転手不足への対応策としてICT等の活用を検討していましたが、導入費用やランニングコストを考えたときに現計画期間の5年間では導入が現実的ではありませんでした。しかし、昨年度、国の補助金を活用して実施した人材育成事業においても、AI・ICT等の導入は検討していくべきことと再認識したため、引き続き継続的な検討を行っていく予定です。

（鹿島市の公共交通を取り巻く状況）

委員C：高津原のりあいタクシーについて、令和7年度にはヘビーユーザーの減少により年間利用者数が減少に転じたということですが、令和7年度以前は堅調に増加傾向にあります。今後も周知次第では増加していくのではないかと思います。

事務局：年々認知度も向上しており、運行に対してご要望などもいただいています。そういった要望に細かに対応していくことで利用者数増加を目指していきたいと思います。また、高津原地区は住宅街であり、今後免許返納者の利用の可能性も考えられるため、利用者は増加すると想定しています。

(次期計画で目指す将来像(案))

委員D：数年前、スカイロードが整備されましたが、歩行者の往来は少ない状況にあります。また今後、肥前鹿島駅が整備されていく中で、駅だけが賑わうのではなく、交通空白地に人が集まる施設などがあれば公共交通を考える余地があるのではないかと思います。

事務局：肥前鹿島駅整備により駅に賑わいが創出されると思われるため、そこから市内を回遊してもらう仕掛けを作る必要があります。先日開催した公共交通フェスタは子ども向けのイベントでしたが2,000～2,500人来場いただきました。その中でまち歩きスタンプラリーを実施し、スカイロードも賑わっていました。また、公園等でもイベントを実施していたため、多くの人に楽しんでもらえたと思います。そういった試みを今後も実施していく必要があり、肥前鹿島駅前整備及び駅前の公園整備までにしっかり準備をする必要があると思います。

また、交通空白地について、中木場ダムには公園施設があり、飲食施設などもできてきているため、観光分野と連携しながら、人が集まるイベントなどを進めていければと思います。

松尾会長：公共交通フェスタのまち歩きスタンプラリーは、まちなかに人の流れができ、試みとしてよかったと思います。若い方が自発的にそういった取り組みを行っているため、駅が整備されてからということではなく、今から準備していく必要があるかと思います。また、交通空白地については、景色がきれいな場所も多いと思います。活性化させていくために、観光地の魅力発信などを実施していく必要があると思います。

委員E：基本方針②市外の移動について、「市民等が意識的に利用することで」と記載されていますが、どのような取り組みの実施を考えているか教えていただきたい。

事務局：数年前に県主体でバス無料デーが実施された時は多くの方に利用いただき、観光地では無料デーに合わせてイベントも実施していました。そういった仕掛けを行っていただけたらと思います。

また、通勤時においても、毎日でなくても通勤手段を自家用車から公共交通に変えてもらうという取り組みが全国的には実施されています。事務局側から公共交通の便利さを知っていただける仕掛けなどを行う必要があるかと思います。

佐賀県：今年度策定予定の県計画においても利用者が乗って支える、また乗らなくても支えるという観点を反映する予定です。公共交通を持続可能なものとしていくためには、み

んなで支えるという考えが必要であり、その考えをどう施策に落とし込むかを今後検討する必要があるため、県も一緒に考えていきたいと思います。

（地域公共交通の課題（現状分析））

委員D：駅周辺に駐車場が少ないという意見があるということだが、駅周辺に駐車場はない方が公共交通利用は増えるかと思います。駅に駐車場がないためバスを使うという地域もあると聞いています。

松尾会長：肥前鹿島駅整備により駐車場も整備されるが、以前よりは駐車台数は少なくなる見込みです。駐車台数の確保などは今後検討していく必要があるかと思います。

また、高齢者から公共交通の情報が入りにくい、わかりにくいというお声はよくいただきます。情報は発信しているつもりであるが、あまり届いていないという実態があるため、情報提供方法は工夫が必要かと思います。

（計画目標（案）、評価指標（案））

委員A：資料でも将来的な運転手不足が課題として記載されています。前回協議会で、タクシー事業者については現状充足しているということでしたが、年齢構成をみると60代、70代が圧倒的な人数となっており、佐賀県全体のタクシー運転手においても平均年齢は66.5歳となっております。運転手の確保は、事業者だけで取り組むことには限界があり、行政等と連携した取り組みを進める必要があると思います。費用が掛からない広報の部分などすぐにでも着手できる取り組みはあるため、運転手確保の取り組みについて計画に記載いただきたいと思います。

佐賀県：県の計画策定の検討では、今月開催予定の地域ワーキングの中で個別施策について検討を行う予定のため、現時点で運転手確保施策に関する具体の施策はない状況です。しかし、県としては、移住促進と連携した運転手の採用活動を行う際の会場使用料や出展料等の補助を行う制度があります。

運転手確保については高齢化という懸念もあるため、次期計画にどう位置づけるか、また位置付けたうえでこういった施策を実施していくかは引き続き議論していく予定です。

事務局：県と連携して取り組んでいくこととなると思いますが、鹿島市においてもワーキンググループを2回実施する中で議論していきたいと思います。

佐賀県：県の計画策定においても協議会委員の方に集まっていただき、作業部会などを通して様々な意見をいただく場を設けている。骨子案等に対して過不足の意見をいただき、ブラッシュアップしながらよりよい計画になるよう検討を進めているところです。

委員B：基本目標2の進捗指標について、「地域間幹線系統に対する補助の予算額」が設定さ

れていますが、予算を確保することが必ずしも路線の維持につながるとは言えないと思われます。補助要件でもある輸送量が一番の基準となるため、そこをどう達成していくかが進捗指標となると思います。

事務局：補助額については、バスの減便状況や、人件費や燃料費の高騰などで予測がつきづらい部分でもあるため、再度検討し、提示させていただきたい。

委員F：基本目標4と基本目標6の指標について、「高校生の公共交通分担率」と「高校生の公共交通に対する満足度」は、市が独自で調査を実施するのか教えていただきたい。

事務局：毎年、高校生に対して通学手段や鉄道の満足度についてのアンケートを実施しています。そのアンケートを拡充する形で調査を行うことができると考えています。

委員B：国土交通省にて、交通空白に関する施策として令和9年までを集中対策期間として交通空白解消本部を立ち上げ、交通空白の解消に集中的に取り組んでいます。交通空白の問題は利用者だけではなく、交通がないことによってその方々を送迎する家族等にも負担となり、その送迎負担が約10兆円の経済損失を招いていると推計されています。そういったところも踏まえ、資料にて中高生や子どもの送迎に対する保護者の送迎負担などについて言及いただいていると思われます。

交通空白解消に向けては、資料にも整理いただいている地域の輸送サービスと連携していくことが重要であると考えます。地域の輸送資源のフル活用というところで、地域の輸送サービスとも連携しながら交通空白解消を目指すという点は国としても推進しているため、基本目標の中で協調いただけたらと思います。

承認

4. その他

(次回開催予定) 令和8年11月20日開催予定

5. 閉 会 広報企画課長